

東白川村 神土（親田・神付・中通集落）

令和2年度

【地域の概要】

- 東白川村は茶（白川茶）の生産が盛んにおこなわれており、当該地においても複数の茶畑が営まれている。
- 山間部に位置する自治体であるため、傾斜・高低差のある農地や、乗用機械等の大型機械の乗り入れが困難な農地も多い。
- また、県内第2位の高齢化率（平成27年度国税調査結果より）であり、依然上昇中である。農業経営者の平均年齢も上昇してきており、今後そうした人たちがいつまで営農を続けられるのか、後継者の確保は出来るのか等が課題となっている。

取組開始前の状況や課題

○個人で経営している小規模な茶畑が点在している。

○乗用の機械が乗り入れられる農地であるため、肥培管理のみ個人で行い、機械での作業は第三セクターへ委託する、という状態が続いていた。

○いずれの農地についても収支が取れない状況となっており、特に一部農地は賃借人が解約意向を示しており、今後、誰が耕作していけるのかが不透明となっていた。



当該農地一覧。いずれも幹線道から外れた山中にある

取組内容

○関係者（土地所有者・農業委員会・役場担当者・第三セクター等）による意見調整を行い、すべての農地を第三セクターで一括して借り上げ、乗用機械による茶葉生産を行う、ということで合意がなされた。



現在の茶畑の様子の一例（R2.12月）
傾斜地に在し、3段の段々畑になっている。

今後の展開と方向性

○生産開始後における指導支援策の実施。

○今回の事例と同様に耕作が困難となっていくであろう農地・耕作者の把握。

○特に白川茶は村の特産品であるため、全国的に緑茶の消費量が減少傾向にある中で、茶畑経営をしている農家への支援策は不可欠となっていく。